PC-9800シリーズ
日本語MS-DOS（Ver5.0A）
基本機能セット
本製品の内容と取り扱いについて

本書では，日本語MS-DOS（Ver5.0A）をご使用になる際の注意事項とマニュアル内容の補足説明が記載されておりますので，必ずはじめにお読みください．

NEC

808-095251-002-105

ご 注 意

⑴　本書の内容の一部または全部を，無断で他に転載することは禁止されています．

⑵　本書の内容は，将来予告なしに変更することがあります．

⑶　本書の内容は，万全を期して作成しております．万一ご不審な点や誤り，記載もれなど，お気付きの点がありましたら，御連絡ください．

⑷　運用した結果の影響については⑶項にかかわらず責任を負いかねますので御了承ください．

MS-DOSは，米国マイクロソフト社の登録商標です．

Windowsは，米国マイクロソフト社の商標です．

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェア）は日本国内仕様であり，外国の規格等には準拠しておりません．本製品は日本国外で使用された場合，当社は一切責任を負いかねます．また，当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません．

はじめに

本書では，『日本語MS-DOS（Ver5.0A)』(以下，MS-DOS 5.0A）の製品構成や使用上の注意事項，本製品に同梱されているマニュアルに加えてさらに解説が必要と思われる機能について記載しております．

まずはじめに「1．製品の構成」を参照し，パッケージ内容を確認してください．

本書に書かれているもので万一ないものがありましたら，お買い求めになった販売店までご連絡ください．

目次

1．製品の構成

1.1 MS-DOS 5.0A の製品構成

MS-DOS 5.0A には，次のような製品があります．

	基本機能セット（本製品） [PS98-1003-32/PS98-1003-52]	拡張機能セット [PS98-1004-32/PS98-1004-52]
媒体	MS-DOS システムファイル 各種コマンド (DOS シェルを始めとする FORMAT,DISKCOPY, CHKDSK, XCOPY, SYS 等のコマンドファイル) AI かな漢字変換機能 日本語入力辞書（約 5 万語）	開発ツールコマンド (LIB, LINK, MAKE, MAPSYM, EXE2BIN, SYMDEB, DEBUG) 日本語入力辞書（約 8 万語）
マニュアル	マニュアルの読み方 インストールガイド さあ始めよう MS-DOS (DOS シェルの解説を中心とした入門マニュアル) ステップアップマニュアル (コマンドの使用方法や日本語入力の操作について やさしく説明) 補足マニュアル 本製品の内容と取り扱いについて（本書）	日本語入力ガイド プログラム開発ツールマニュアル プログラマーズ リファレンスマニュアル VOL.1 プログラマーズ リファレンスマニュアル VOL.2 ユーザーズリファレンスマニュアル (MS-DOS のコマンドを詳細に解説)

※『ユーザーズリファレンスマニュアル [PS98-1003-RM2]』は，マニュアルのみの別売もしております．

※『拡張機能セット』のみでは，MS-DOS 5.0A をご使用できません．
『拡張機能セット』ご購入時には，あわせて『基本機能セット』も購入してください．

1.2 基本機能セットの製品構成

本製品には，以下のものが含まれています．

通番	構　成　品	チェック
・	フロッピィディスク×３枚	
1	日本語 MS-DOS システムディスク ＃1	
2	日本語 MS-DOS システムディスク ＃2	
3	日本語 MS-DOS システムディスク ＃3	
・	マニュアル	
4	マニュアルの読み方	
5	インストールガイド	
6	さあ始めよう MS-DOS	
7	ステップアップマニュアル	
8	補足マニュアル	
9	本製品の内容と取り扱いについて	本　書
・	その他	
10	ユーザ登録カード	

上記の表に書かれているもので万一ないものがありましたら，お買い求めになった販売店までご連絡ください．

注意：『日本語 MS-DOS（Ver5.0）』からバージョンアップされた場合，上記の表のうち次のものは含まれておりません．

・マニュアルの読み方

・インストールガイド

・さあ始めよう MS-DOS

・ステップアップマニュアル

2．本製品ご使用にあたっての注意事項

本製品をご使用の際は以下の点にご注意ください．

・市販のソフトウェアの中には，使用する日本語 MS-DOS のバージョンを限定しているものがありますのでご注意ください．

・『基本機能セット』のディスクはファイルが圧縮されているため，そのままでは利用できません．ご利用の際は同梱の「インストールガイド」に従って運用ディスクを作成してください．

・プロテクトのかかったソフトウェア，システムの情報を直接参照しているソフトウェア，EMS／XMS 機能以外の方法で拡張メモリを使用しているソフトウェア等は一部動作不良を起こすものがあります．

・日本語 MS-DOS（Ver5.0A）の機能拡張にともない，各コマンドなどのファイル容量が増加していますので，フロッピィディスクへのインストールの際はご注意ください．
（フロッピィディスクにインストールした場合，運用媒体は 4 枚になります．）

・V30，8086CPU 搭載機（PC-98LT・HA を除く）や本体内メモリが 640キロバイトの機種で使用した場合，ユーザーズメモリが日本語 MS-DOS（Ver3.3D）と比べて約 16キロバイト減少します．

・アプリケーションソフト等をご使用の際にメモリが不足する場合は，不要なデバイスドライバや常駐コマンドを組み込まないようにするか，DOS シェルを終了してご使用ください．

・PC-H98シリーズでご利用できるユーザ定義文字は，全角文字 219文字のみです．

・PC-H98シリーズで利用可能なメモリ容量は，最大 14.6メガバイトです．

3．他のOS製品との関係

MS-DOS 5.0AにMS-DOS 3.3x／MS-DOS 5.0から移行する場合や，MS-DOS5.0A上でMS-WINDOWSをご使用になる場合は，次のことにご注意ください．

3.1 MS-DOS 3.3x／MS-DOS 5.0からの移行

MS-DOS 3.3xまたはMS-DOS 5.0からMS-DOS 5.0Aに移行する場合は次の手順でインストールを行ってください．

① 本製品に同梱されている「インストールガイド」に従って，MS-DOS 5.0AをMS-DOS 3.3x／MS-DOS 5.0の入っているドライブにインストールします．

② MS-DOS 5.0Aのインストール時に作成された新しいCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルは，MS-DOS 3.3x／MS-DOS 5.0運用時のCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルを考慮して作成されていますが，環境によっては正常に動作しない場合があります．
このため，MS-DOS 3.3x／MS-DOS 5.0運用時のCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイル（CONFIG.OLDとAUTOEXEC.OLDにリネームされています）を参考にし，エディタなどで修正します．
また，ADDDRVコマンドで指定するデバイスドライバ定義ファイルもMS-DOS 5.0Aのデバイスドライバを使用するように修正する必要があります．

注意：MS-DOS 3.3x／MS-DOS 5.0とMS-DOS 5.0Aで同名または同機能のデバイスドライバやコマンドは，必ずMS-DOS 5.0Aのものを使用するように設定してください．

③ MS-DOS 3.3xでアプリケーションプログラムなどをメニューに登録し，ご使用になっていた場合は，登録していたメニューファイル（*.MNU）をMENUCONVコマンドを使ってDOSシェルに登録します．

【書式】 MENUCONV ［ドライブ：］［パス］ファイル名1 ［［ドライブ：］［パス］ファイル名2］
ファイル名1：変換元のメニューファイル名を指定します．
ファイル名2：変換先のDOSシェル用INIファイル名を指定します．
（ファイル名2を省略した場合はDOSSHELL.INIに登録します．）

【使用例】

次の例では，MS-DOS 3.3xで使用していたメニューの内容をDOSシェルに登録します．
なお，メニューの内容が登録されているAP.MNUファイルがAドライブのディレクトリ¥AP

にあり，ディレクトリ¥DOSにMS-DOS 5.0Aがインストールされているものとして説明します.

なお，⏎はリターンキーの入力を表し，____（アンダーライン）は入力データを表します.

```
MENUCONV　A:¥AP¥AP.MNU　A:¥DOS¥DOSSHELL.INI⏎
```

MENUCONVコマンドのメッセージに従って操作し，MENUCONVコマンドが終了するとDOSシェルへの登録は終了です.

参考：MS-DOS 5.0Aでは，従来のメニューをお使いになる方のためにMS-DOS3.3Dと同等のMENU.COMとMENUED.EXEを用意しています.

使用方法については，従来のMS-DOSに添付のマニュアルをご参照ください.

注意：1.「メニューの終了」の項目はDOSシェルには登録できません.

2. メニュータイトル・メニュー項目名が半角文字で23文字（全角11文字）を超える場合は，DOSシェルに登録する際に半角23文字（全角11文字）を超えた部分が切り捨てられます.

3. DOSシェルのメニューを記述するファイル（DOSSHELL.INI）を直接エディタで編集する場合は，"[programstarter]"と"group ="の記述を削除しないでください. 削除した場合は，MENUCONVコマンドによる登録はできません.

④ MS-DOS 5.0のインストールされているドライブにMS-DOS 5.0Aをインストールした場合は，DOSシェルのメニュー等を記述するファイル（DOSSHELL.INI）は，変更されません. したがって，DOSシェルのメニューに登録していたアプリケーションプログラムはそのままの状態でご使用になれます.

なお，MS-DOS 5.0AのDOSSHELL.INIファイルは"DOSSHELL.NEW"というファイル名でインストールされています. インストール直後のDOSシェルの設定にしたい場合は，ファイル名を"DOSSHELL.INI"にリネームしてください.

また，MS-DOS 5.0Aのインストール時に指定したサブディレクトリにSETVER.EXEがすでにある場合，登録済の情報を保つために，インストール時には更新されませんのでご注意ください.

3.2 MS-WINDOWS（Ver3.0）を使う際の注意

MS-DOS 5.0A 上で MS-WINDOWS（Ver3.0）をご使用になる場合は，次のことにご注意ください．

① 以下のデバイスドライバは MS-DOS 5.0A に添付のデバイスドライバを使用してください．

1．HIMEM.SYS

2．SMARTDRV.SYS

3．RAMDISK.SYS

4．EMM386.SYS（MS-DOS 5.0A では EMM386.EXE となります．）

注意：MS-WINDOWS（Ver3.0）が先にインストールされている場合は，MS-DOS 5.0A のインストール時に CONFIG.SYS ファイルが更新され，MS-DOS 5.0A に添付のデバイスドライバが設定されます．

② MS-WINDOWS（Ver3.0）のかな漢字変換で ＜AI かな漢字変換（MSKANJI.EXE)＞ を使用する場合は，MS-DOS 5.0A に添付のかな漢字変換ドライバを使用してください．
かな漢字変換ドライバの変更は，CONFIG.SYS ファイルまたは WINSTART.BAT ファイルの ADDDRV コマンドで指定するデバイスドライバ定義ファイルを修正する必要があります．

【修正例】

○ CONFIG.SYS ファイルまたはデバイスドライバ定義ファイルを以下のように修正する．

（修正前）

```
:
DEVICE＝A:¥WINDOWS¥NECAIK1.DRV
DEVICE＝A:¥WINDOWS¥NECAIK2.DRV
:
```

（修正後）

```
:
DEVICE＝A:¥DOS¥NECAIK1.DRV
DEVICE＝A:¥DOS¥NECAIK2.DRV
:
```

③ MS-DOS 5.0A 上で，DPMI を常駐させた場合，

EXIT ⏎

を入力し，常駐を解除してから WINDOWS を起動してください．

3.3 MS-WINDOWS（Ver3.0A）を使う際の注意

MS-DOS 5.0A 上で MS-WINDOWS（Ver3.0A）をご使用になる場合は，次のことにご注意ください．

① すでに MS-WINDOWS（Ver3.0A）がインストールされているドライブに MS-DOS 5.0A をインストールする場合は，MS-DOS 5.0A のインストールの際に作成された CONFIG.SYS ファイルをそのままご使用ください．
ただし，ADDDRV コマンドで指定するデバイスドライバ定義ファイルで MS-DOS 5.0A と同名または同機能のデバイスドライバがある場合は，必ず MS-DOS 5.0A のデバイスドライバを使用するように修正してください．

② 先に MS-DOS 5.0A がインストールされている場合に MS-WINDOWS（Ver3.0A）のインストールやセットアップを行うと CONFIG.SYS ファイル中の EMM386 ドライバの組み込み順序やパラメータが変更され，DOS シェルの拡張タスクスワップ機能が利用できなくなったり，他のデバイスドライバが EMS メモリを使用できずにメインメモリを消費するためにメモリ不足となり，MS-WINDOWS（Ver3.0A）の再セットアップ等ができなくなります．

【MS-WINDOWS が CONFIG.SYS ファイルを書き換えてしまう例】

○ MS-WINDOWS（Ver3.0A）をインストールする前の CONFIG.SYS ファイルの内容

```
FILES=30
      :
DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /P=96 /F=C000 /UMB /T=A:¥DOS¥EXTDSWAP.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥NECAIK1.DRV
DEVICE=A:¥DOS¥NECAIK2.DRV A:NECAI.SYS
DOS=HIGH, UMB
```

○ MS-WINDOWS（Ver3.0A）のインストールした後の CONFIG.SYS ファイルの内容

```
FILES=30
      :
DEVICE=A:¥DOS¥NECAIK1.DRV
DEVICE=A:¥DOS¥NECAIK2.DRV A:NECAI.SYS
DOS=HIGH, UMB
DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /P=64 /F=C000 /UMB
                         ↑
組み込む順序が変更され，/T スイッチが削除される
```

この例では，かな漢字変換ドライバ（NECAIK1.DRV, NECAIK2.DRV）が EMS メモリを使用できなくなります．
また，/T スイッチが削除されたため DOS シェルの拡張タスクスワップ機能も利用できなくな

ります.

このような場合は，CONFIG.SYSファイルの組み込み順序とスイッチをエディタまたはCUSTOMコマンドを使用してMS-WINDOWS（Ver3.0A）のインストール（またはセットアップ）前の設定に戻してください.

WINDOWSのインストール（またはセットアップ）前のCONFIG.SYSファイルの内容はWINDOWSをインストール（またはセットアップ）したディレクトリに"CONFIG.OLD"というファイル名で保存されています.

③ MS-DOS 5.0A上で，DPMIを常駐させた場合，

EXIT ⏎

を入力し，常駐を解除してからWINDOWSを起動してください.

4．MS-DOS を起動するディスクドライブの設定

MS-DOS 5.0A では，MS-DOS を起動するディスクドライブの設定方法が MS-DOS3.3C 以前の方法から変更されていますので次のことにご注意ください．

4.1 自動起動の設定

ノーマルモードでの固定ディスクから固定ディスク起動メニュープログラムを経由せずに自動起動させるための操作方法を次のように変更しました．

（従来）　1．固定ディスク起動メニュープログラムで「自動起動の設定」をする．
　　　　　2．SWITCH コマンドで「起動装置」を自動起動する固定ディスクにする．
　　　　　3．ディップスイッチの 2 - 5 を ON にする．

（変更後）　1．固定ディスク起動メニュープログラムで「自動起動の設定」をする．
　　　　　　→ SWITCH コマンドの実行を不要にしました．

4.2 固定ディスク起動メニュープログラムの起動

ノーマルモードで自動起動の設定を行った場合に，固定ディスク起動メニュープログラムを起動するためには TAB キーを押しながら電源をオンにします．

この時，TAB キーは「ピッピッピッ …」と音がなるまで押したままにしてください．

注意：1．ハイレゾモードは従来の操作方法から変更されていません．
　　　2．2 台目以降の固定ディスクに MS-DOS 5.0A をインストールした場合は現在ご使用の方式から変更されません．

※詳しくはインストールガイドの『2.5 ディスクドライブを増設するには』の『MS-DOS を起動するディスクドライブの設定』をご参照ください．

5．MS-DOS 5.0に対応していないかな漢字変換ドライバを使う　－KKCSAV.SYS－

MS-DOS 5.0では，MS-DOS 3.3xで使用していた，かな漢字変換ドライバ（以下FEP：Front End Processor）が，動作しない場合があります．

このため，MS-DOS 5.0Aでは日本語入力をサポートするFEPのうちMS-DOS 5.0A（MS-DOS 5.0も含む）に対応していないのものを動作させるデバイスドライバとして「KKCSAV.SYS」を用意しています．

MS-DOS 5.0に対応していないFEPを使用する場合は，CONFIG.SYSファイルもしくはデバイスドライバ定義ファイルを次のように修正する必要があります．

【例1】

① エディタなどでCONFIG.SYSファイルをオープンします．
オープンしたCONFIG.SYSファイルに次のようなコマンドラインがあると仮定します．

```
DEVICE=A:¥FEP¥NIHONGO.SYS
```

ここでは，MS-DOS 5.0に対応していない"NIHONGO.SYS"というファイル名のFEPがAドライブの¥FEPディレクトリにあるものと仮定しています．

② ①のコマンドラインの前に，"KKCSAV.SYS"を組み込むためのコマンドラインを追加します．

```
DEVICE=A:¥DOS¥KKCSAV.SYS
DEVICE=A:¥FEP¥NIHONGO.SYS
```

ここでは，"KKCSAV.SYS"がA:¥DOSディレクトリにあると仮定しています．

③ CONFIG.SYSファイルを保管し，変更した内容を有効にするためにシステムを再起動します．

また，DOSシェル上でMS-DOS 5.0に対応していないFEPを使用する場合は，CONFIG.SYSファイルでは組み込まずにADDDRV／DELDRVコマンドを使用しなくてはなりません．

【例２】

① ADDDRV コマンドで使用するデバイスドライバ定義ファイルを次のように作成します.

DEVICE＝A:¥DOS¥KKCSAV.SYS
DEVICE＝A:¥FEP¥NIHONGO.SYS

ここでは，A:¥DOS ディレクトリに "KKCSAV.SYS" があり，A:¥FEP ディレクトリに "NIHONGO.SYS" というファイル名の MS-DOS 5.0 に対応していない FEP があるものと仮定しています.

② ① で作成したデバイスドライバ定義ファイルを "FEP.DEV" というファイル名で保存し，これを DOS シェルのタスク上で組み込みます.
この時，次のようなバッチファイルを作成し，DOS シェルのメニューに登録しておくと使いやすい環境が作成できます.

ADDDRV A:¥DEV¥FEP.DEV
---------------- ← ここで FEP を使用するアプリケーションソフトなどを起動する.
DELDRV

ここでは，A:¥DEV ディレクトリにデバイスドライバ定義ファイル "FEP.DEV" があるものと仮定しています.

注意：1．"KKCSAV.SYS" は，使用する FEP よりも前に指定してください.
2．使用する FEP によっては，SETVER コマンドと "KKCSAV.SYS" の両方を使用する必要のある場合や，"KKCSAV.SYS" を組み込んでも使用できない場合もあります.
3．DOS シェル上で MS-DOS 5.0 に対応していない同一の FEP を，同時に複数のタスクに組み込んで使用することはできません.
4．MS-DOS 5.0 に対応していない FEP を組み込んだ場合には，SELKKC コマンドによる FEP の選択はできません.
5．MS-DOS 5.0 に対応していない FEP だけをご使用になる場合，"KKCFUNC.SYS" を組み込む必要はありません.
"KKCFUNC.SYS" は，MS-DOS 5.0 に対応している FEP を使用する場合に一つだけ組み込んで使用するデバイスドライバです.
6．バッチファイル中で ADDDRV コマンドを使用する場合は，DELDRV コマンドを必ず最後に記述してください.

6．DOS シェルを使用する際の注意

6.1 DOS シェルをタスクスワップ・オンで使用する場合の注意

DOS シェルをタスクスワップ・オンでご使用になる場合は，次のことにご注意ください．

① DOS シェルをタスクスワップ･オンの状態で，グラフ画面を使用するアプリケーションソフトを実行する場合は，以下の手順で「プログラムリスト」に登録してください．

【登録方法】

1．メニューバーの「ファイル」を選択します．
2．プルダウンメニューから「新規登録」を選択します．
3．「プログラムを登録する」を選択します．
4．「プログラム･タイトル」，「コマンド」等，必要な登録情報を入力欄に入力します．

上記の手順でアプリケーションプログラムを DOS シェルに登録すると，「ビデオモード」が「グラフィック」で登録されます．
「ビデオモード」は上記の 4．の画面で「その他…」を選択すると表示されます．

注意：「ビデオモード」が「テキスト」の場合，タスクスワップの際に画面情報が保持されないため，タスクスワップを行うと画面が乱れる場合があります．
次のように起動したプログラムは，「ビデオモード」が「テキスト」で起動されますのでご注意ください．
1．DOS シェルの「ファイルリスト」に表示されているファイルを直接起動した場合．
2．SHIFT ＋ F 9 キーで起動されるコマンドプロンプト．

② 通信の実行中やプリンタに印刷中のタスク･スワップは，行わないでください．
タスク・スワップを行うと，処理が中断されるため正しい結果を得られなくなります．

③ 同じアプリケーションソフトを複数起動するとアプリケーションソフトの動作は保証されません．

④ ファイル等の資源を共有するプログラムを複数起動し，タスク・スワップを行うとファイル破壊やシステム破壊の原因となります．

6.2 マウスを使用するアプリケーションプログラムの注意

DOS シェル上でアプリケーションプログラムをご使用になる場合に，アプリケーションプログラムがマウスドライバを使用する場合は次の手順でアプリケーションプログラムを起動してください．

【起動方法】

1．MS-DOS 5.0A に付属の MOUSE.COM を起動する．

2．DOS シェルを起動します．

3．下記のようなマウスドライバの組み込みとアプリケーションプログラムの起動を行うバッチファイルを作成し，DOS シェルに登録します．

○ MOUSE.COM を使用するアプリケーションソフト

```
MOUSE
AP の起動
MOUSE /R
```

○ MOUSE.SYS を使用するアプリケーションソフト

```
ADDDRV デバイスドライバ定義ファイル
AP の起動
DELDRV
```

この時のデバイスドライバ定義ファイルは，以下のような内容を記述します．

DEVICE＝¥DOS¥MOUSE.SYS

○ MS-DOS 5.0A に含まれていないマウスドライバを使用するアプリケーションソフト

```
ADDDRV デバイスドライバ定義ファイル（またはマウスコマンドの実行）
AP の起動
DELDRV（またはマウスの常駐解除）
```

6.3 その他の注意事項

① DOSシェル上のコマンドプロンプトで，ADDDRVコマンドを実行しデバイスドライバを組み込んだ場合には，"EXIT"コマンドでDOSシェルへ戻る前に，必ずDELDRVコマンドを実行し組み込んだデバイスドライバを取り外してください．

② DOSシェルの「プログラムリスト」に登録する際の登録情報の一つである「アプリケーション・ショート・カット・キー」は，CAPSキーおよびカナキーの状態を含めて登録されます．

注意：画面上に表示される「アプリケーション・ショート・カットキー」の登録情報は，登録されたCAPSキーおよびカナキーの状態に関わらず，大文字の英数字となります．

【登録例】

登録情報	アプリケーション・ショート・カット・キー	画面表示
プログラム1	GRPH ＋A	GRPH＋A
プログラム2	GRPH ＋a	〃
プログラム3	GRPH ＋チ（CAPS ON）	〃
プログラム4	GRPH ＋チ（CAPS OFF）	〃

③ DOSシェルにSETUPコマンドでアプリケーションプログラムを登録した場合「プログラムリスト」に登録できるタイトルの文字数が最大で半角23文字（全角11文字）のために，タイトルの一部分が切れてしまう場合があります．
このような場合は，DOSシェルのメニューから「登録情報」をオープンして，タイトルを上記の文字数以内となるように修正してください．

④ ファイルリスト上のカーソルを移動してプログラムファイルを選択し，起動してもカレントドライブおよびカレントディレクトリは，変更されません．

注意："COMMAND.COM"を起動したりDOSシェルを終了した場合は，選択されていたドライブおよびディレクトリがカレントとなります．